

## 第1回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日時：平成30年5月29日（火） 15:00～17:00
2. 場所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 201 会議室
3. 出席者：
  - （委員）永井議長、喜連川委員、竹中委員、成宮委員、堀田委員、山本委員、米田委員
  - （事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、泉統括役、松尾経営企画部長、矢作総務部長、前田経理部長、中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、高見産学連携部長、野田国際事業部長、井本臨床研究・治験基盤事業部長、河野創薬戦略部長、林革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長、岡村基盤研究事業部バイオバンク課長

### 4. 議事

1. AMED の自己評価について
2. その他

### 5. 議事の概要

開会后、事務局より出席者の報告を行い、議事に入った。議事1について、事務局より、資料2等を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- RIO ネットワークの構築は高く評価できる。
- 感染症については、J-PRIDE における国際的取組との縦横連携など、よくマネジメントされている。他の分野にも応用してほしい。
- 研究マネジメントチェック項目は、進捗管理のどこで課題があるのかよくわかり、価値が高いと思う。
- データマネジメントプランの提出義務化はよいと思う。研究不正を防止する意味でも非常に大事。
- 研究者ベースで国際共同研究を立ち上げようとした際、マッチングが上手くいかない場合があるので、支援を考えてほしい。

- 女性の活躍も取り上げていただきたい。
- 革新的医療技術創出拠点について、拠点外の支援という ARO 機能を果たしてきたことは高く評価したい。
- 拠点外支援の拡大に伴いシーズの選定業務に対する負荷が増えている拠点を評価してほしい。
- 医療機器開発の医工連携で臨床研究法施行の影響が出てくるという話がある。アカデミアの意見を吸い上げて運用を改善することを考えてほしい。
- 精神・神経疾患については、日本の脳科学研究は優れていても疾患研究は戦略目標や捉え方が明確になっていないのではないか。
- 学会主導の画像 DB 構築等については、データを提供していただくことで、研究が活性化しているので、こういう取組をいろいろな分野で進めてほしい。
- 感染症での企業の取組は、AMED のイニシアティブで協力的になったが、認知症での企業の開発は、次のシーズがなく次の投資に迷っており、踊り場にいる。
- 業務の電子化について、平成 30 年 4 月からの運用なら、平成 29 年度実績の評価にはならないのではないか。

事務局から、時間の関係で説明できなかった項目については、後日ご意見をいただくこと、自己評価報告書（案）を修正する場合、次回の本評議会に諮らせていただくこと、外部評価報告書（案）についても、次回の本評議会に諮らせていただくことを説明し、了承された。

以上で議事を終了し、閉会した。